

平成27年9月15日
市長記者会見資料

平成27年度（第44回）川崎市文化賞等の受賞者の決定について

1 平成27年度川崎市文化賞等について

(1) 川崎市文化賞

| | |
|-------|--------|
| 大谷 康子 | (芸術) |
| 小原 孝 | (芸術) |
| 長島 保 | (文化活動) |
| 渡辺 賢二 | (教育) |

(2) 川崎市社会功労賞

| | |
|-------|--------|
| 新井 靖子 | (社会福祉) |
|-------|--------|

(3) 川崎市アゼリア輝（かがやき）賞

| | |
|--------|----------|
| 赤瀬 紗也香 | (スポーツ実践) |
| 渡邊 麗美 | (スポーツ実践) |

2 平成27年度川崎市文化賞等贈呈式・祝賀会

(1) 日 時 平成27年11月5日（木）14:00～16:00

(2) 場 所 川崎市国際交流センター

(問い合わせ先)

川崎市市民・こども局

市民文化室文化施策調整担当

電話 044-200-2279

<目次>

(ページ)

| | | |
|-----|--------------------|----|
| 1 | 平成27年度川崎市文化賞等受賞者一覧 | 1 |
| 2 | 受賞者のプロフィール・略歴(敬称略) | |
| (1) | 川崎市文化賞受賞者 | |
| | 大谷 康子 | 2 |
| | 小原 孝 | 4 |
| | 長島 保 | 6 |
| | 渡辺 賢二 | 8 |
| (2) | 川崎市社会功労賞受賞者 | |
| | 新井 靖子 | 10 |
| (3) | 川崎市アゼリア輝(かがやき)賞 | |
| | 赤瀬 紗也香 | 12 |
| | 渡邊 麗美 | 14 |
| 3 | 平成27年度川崎市文化賞等選考委員 | 16 |
| 4 | 贈呈式 | 17 |
| | (参考) | |
| 1 | 川崎市文化賞等実施要綱 | 18 |
| 2 | これまでに受賞された方々 | 22 |
| 3 | 川崎市文化賞等の経過について | 25 |

平成27年度川崎市文化賞等受賞者一覧

(平成27年9月15日現在)

| 賞 | 区分 | 氏名 | 年齢 | 功績分野 | 住所 |
|--------|----|-------------------|----|--------|--------|
| 文化賞 | 個人 | おおたに やすこ 大谷 康子 | | 芸術 | 東京都練馬区 |
| | 個人 | おぼら たかし 小原 孝 | 55 | 芸術 | 川崎市高津区 |
| | 個人 | ながしま たもつ 長島 保 | 81 | 文化活動 | 東京都大田区 |
| | 個人 | わたなべ けんじ 渡辺 賢二 | 72 | 教育 | 東京都稲城市 |
| 社会功労賞 | 個人 | あらい やすこ 新井 靖子 | 76 | 社会福祉 | 川崎市中原区 |
| アゼリア輝賞 | 個人 | あかせ さやか 赤瀬 紗也香 | 21 | スポーツ実践 | 川崎市高津区 |
| | 個人 | わたなべ れみ 渡邊 麗美 | 22 | スポーツ実践 | 川崎市宮前区 |

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

おおたに やすこ
大谷 康子

～華やかさと高い技術を誇るヴァイオリニスト～

華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けている、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニストです。今年デビュー40周年を迎えました。国内はもちろん、海外でも活躍されているほか、川崎市市民文化大使として、市民向けのコンサートや、小中学校での音楽鑑賞教室など、音楽のまちづくりにも貢献されています。



Photo 尾形正茂

| 略 歴 | |
|---|--|
| 氏 名 | 大谷 康子 様 |
| 住 所 | 東京都練馬区 |
| 川崎市における 在住年数 | |
| 職 業 | ヴァイオリニスト |
| 昭和 63 年 | 日本女性で初めて一夜にメンデルスゾーン、ストラヴィンスキー、ラロのヴァイオリン協奏曲を演奏 |
| 平成 2 年 | ヨーロッパ 4 都市（ウィーン・ローマ・ケルン・ベルリン）でリサイタルを開催 |
| 平成 21 年 | トロント音楽祭に招かれる |
| 平成 22 年 | 弦楽四重奏団クワトロ・ピアチェーリとして文化庁芸術祭賞音楽部門「芸術祭大賞」受賞 |
| 平成 23 年 | 川崎市文化大使就任 |
| 平成 24 年 | 川崎アゼリアにて「大谷康子プロデュースコンサート」開始 |
| 平成 25 年 | ザルツブルク市に招待されミラベル宮殿でリサイタルを開催 |
| 平成 26 年 | 多彩なジャンルがコラボレーションした舞台「古代祝祭劇 太陽の記憶ー卑弥呼」に参加のほか、シュトゥットガルト室内管弦楽団と日本ツアーを行う |
| 平成 27 年 | デビュー40周年を迎え、5月には一度に4曲の協奏曲を演奏する公演や、9月にはパティシエの鎧塚俊彦氏と、11月にはジャズピアニストの山下洋輔氏とのコラボレーションを、12月にはキエフ国立フィルとの共演を行う |
| <p>【推薦理由】</p> <p>平成14年のソロ・コンサートマスターを務める東京交響楽団の川崎市とフランチャイズ提携締結以来、市民や、市に避難されてきた被災者などを対象に様々なコンサートを通じて地域貢献してきた。平成23年に川崎市市民文化大使に就任してからは、より一層、音楽のまちづくりに貢献され、アゼリアでの大谷康子プロデュースコンサートや、市内小中学校での音楽鑑賞教室なども開催。平成25年には友好都市であるザルツブルク市に川崎市市民文化大使として訪問し、リサイタルを行うなど、ザルツブルク市との交流も深められた。</p> <p>【推薦者】</p> <p>(公財) 川崎市文化財団理事長 北條秀衛</p> | |

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

おぼら たかし
小原 孝

～あらゆるジャンルの音楽と遊ぶピアノの詩人～

ジャンルにとらわれず、様々な音楽をアレンジして、自由自在に自分の音を紡ぎだす、今年デビュー25周年を迎えたピアニストです。全国各地でのコンサートやNHK-FMで17年「弾き語りフォーユー」のパーソナリティーを務められるなど、日本中の様々な層の人気を集める傍ら、地元高津区での演奏会や、被災地にピアノを送るなどの地道な復興支援活動を継続的に行うなど、幅広い活動をされています。



Photo 駒井夕香

| 略 歴 | |
|--|--|
| 氏 名 | 小原 孝 様 (55 歳) |
| 住 所 | 川崎市高津区 |
| 川崎市における 在住年数 | 55 年 (昭和 35 年 3 月～現在) |
| 職 業 | ピアニスト・作曲家 |
| 昭和 61 年 | 国立音楽大学大学院修了 クロイツァー賞受賞 |
| 平成 2 年 | 「ねこはとってもピアニスト」で CD デビュー (現在までに 40 作以上の ソロアルバムを発表) |
| 平成 6 年 | 小原孝ピアノコンサート全国ツアースタート (現在までに 1000 回以上の 公演を行う) |
| 平成 11 年 | NHK-FM「弾き語りフォーユー」放送開始 (現在も継続中) |
| 平成 14 年 | 第 13 回奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞受賞 「弾き語りフォーユー」が ABU 賞ラジオ部門エンターテイメント賞を受 賞 |
| 平成 15 年 | 川崎市市民文化大使就任 |
| 平成 17 年 | 第 16 回奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞受賞 |
| 平成 18 年 | 第 17 回奏楽堂日本歌曲コンクール優秀共演者賞及び作曲部門「中田喜直 賞」受賞 |
| 平成 21 年 | NHK E テレ趣味悠々「指 1 本からはじめる小原孝の楽しいクラシックピ アノ」放送 |
| 平成 23 年 | NHK E テレあなたもアーティスト「指 1 本からはじめる！小原孝のピア ノでポップスを弾こう」放送 逢えてよかったね友達プロジェクト開始 |
| 平成 27 年 | CD デビュー 25 周年記念リサイタルを東京文化会館大ホールで開催 |
| 現在 | 尚美学園大学客員教授 国立音楽大学非常勤講師 PTNA 全日本ピアノ指導者協会評議委員 日本著作権協会正会員 日本演奏連盟会員 日本ギロック協会名誉会員 |
| 代表作品 | 「ねこふんじゃったスペシャル」「ピアノよ歌え」シリーズ 「ピアノ詩集」シリーズ「弾き語りフォーユー」シリーズ ほか |
| 【推薦理由】 | |
| 川崎市出身・在住のピアニスト・作曲家であり、テレビ・ラジオなどでも活躍しているほか、市 内でのコンサートや、市立久本小学校の開校 50 周年記念歌を作曲するなど、市内でも活躍され ている。また、平成 15 年からは 10 年以上に渡り川崎市市民文化大使としても活躍されている。 | |
| 【推薦者】 | |
| 多摩川新聞社 | |

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

ながしま たもつ
長島 保

～多摩川とともにある暮らしを伝える～

母なる川・多摩川を愛し、その環境や文化の保全・継承などを行う多摩川エコミュージアム運動や、二ヶ領用水400年プロジェクトのために奔走されました。また、多摩川を中心に、川崎市の郷土史について研究、川崎市史の編纂や、新聞、講座のほか、様々な場面でその歴史を伝えられています。昨年は多摩川の築堤に繋がったアミガサ事件から100年の年に当たり、その伝承にも尽力されています。



| 略 歴 | |
|--|--|
| 氏 名 | 長島 保 様 (81 歳) |
| 住 所 | 東京都大田区 |
| 川崎市における 在住年数 | |
| 職 業 | 地域史研究家 |
| 昭和 35 年 | 川崎市立川崎中学校教諭 |
| 昭和 39 年 | 神奈川県立磯子工業高等学校教諭 |
| 昭和 40 年 | 神奈川県立川崎高等学校教諭 |
| ～平成 7 年 | |
| 昭和 48 年頃から | 「川崎市史・近代編」の編集・執筆に参加 |
| 平成 8 年 | 神奈川新聞川崎版に市民グループで連載。執筆と共に、全連載の監修・校 |
| ～平成 23 年 | 閲を行う |
| 平成 10 年 | たま・エコPJにて『散策こみち案内』全 14 集の作成や、多摩川発見の |
| ～平成 25 年 | 催しを開催し、その総合コーディネーターを務める |
| 平成 11 年 | 共著『二ヶ領用水 400 年～よみがえる水と緑～』出版 |
| 平成 14 年 | 特定非営利活動法人多摩川エコミュージアム設立 特定非営利活動法人多摩川エコミュージアム代表理事（～平成 18 年・現 在は理事） |
| 平成 21 年 | 二ヶ領用水竣工 400 年プロジェクト結成・代表 |
| 平成 23 年 | （公財）日本河川協会 河川功労者表彰 |
| 【推薦理由】 | |
| <p>長年、大田区に住む川崎市民（川崎市域をフィールドにしている）として地域文化活動に貢献してきた。特に、グループで15年間神奈川新聞に連載していた「かわさき市民の歴史」をはじめとする連載の全てを長島氏が校正していた。</p> <p>また、アミガサ事件について川崎市史等にも執筆されているほか、講演会での講師をされるなど後世に広く伝えていく活動により、郷土の誇りとしてのアミガサ事件の継承に大きく寄与されている。</p> | |
| 【推薦者】 | |
| アミガサ事件100年の会 会長 森善一郎 | |

川崎市文化賞受賞者のプロフィール

わたなべ けんじ
渡辺 賢二

～高校生らとともに陸軍登戸研究所の実態を解明～

法政大学第二高等学校教員時代に陸軍登戸研究所に注目、調査研究を開始されました。その中で、高校生や市民と共に行った当時の関係者訪問をきっかけに、長年ベールに包まれていた研究所の実態が解明され、歴史上から消えていくはずだった真実が伝承されることとなりました。現在も、明治大学平和教育登戸研究所資料館展示専門委員としてその歴史を伝えられるとともに、様々な機会をとらえ、広い視野で平和教育を行われています。



| 略 歴 | |
|---|--|
| 氏 名 | 渡辺 賢二 様 (72 歳) |
| 住 所 | 東京都稲城市 |
| 川崎市における 在住年数 | 7 年半 |
| 職 業 | 明治大学平和教育登戸研究所資料館展示専門委員 |
| 昭和 60 年～ ～平成 9 年 平成 20 年 平成 22 年 | 陸軍登戸研究所の調査・資料収集・保存運動開始 川崎市史編纂専門員 川崎市民アカデミー・川崎学歴史コーディネーター（～現在） 明治大学平和教育登戸研究所開館 |
| <p>【推薦理由】</p> <p>法政大学第二高等学校で教鞭をとられていた 1985 年頃から陸軍登戸研究所に注目、調査研究を開始。当時の勤務員は重い口を開かなかつたが、渡辺氏と活動していた高校生達が勤務員達を尋ね、熱心に語りかけたところ、重い口を開き、登戸研究所の実態解明に繋がった。明治大学平和教育登戸研究所資料館が開館できたのは、渡辺氏が早くから平和教育の観点で若者や勤務員に働きかけたからである。また、現在でも講演など、広い視野で平和教育を行っている。</p> <p>【推薦者】</p> <p>明治大学平和教育登戸研究所資料館館長 山田朗</p> | |

川崎市社会功労賞受賞者のプロフィール

あらい やすこ
新井 靖子

～障がい者の社会参加のために～

市立中学校の特別支援学級で教員生活を送りながら、障がい児やその家族、担当する教員を支援するための活動を開始、1981年には支援組織「わになろう会」の設立に参加。事務局を長年務め、2001年の法人化と同時に理事長に就任されました。また、特別な支援を必要としている子どもたちの支援者のネットワークである「豊かな地域療育を考える連絡会」を立ち上げられるなど長年に渡り、障がい児があたりまえの権利を行使できるよう、活動され続けています。



| 略 歴 | |
|--|---|
| 氏 名 | 新井 靖子 様 (76 歳) |
| 住 所 | 川崎市中原区 |
| 川崎市における 在住年数 | 52 年半 |
| 職 業 | 特定非営利活動法人わになろう会理事長 |
| 昭和 37 年～ | 川崎市立中学校に赴任 (障害児学級担任 37 年間) |
| 昭和 45 年～ | 川崎保育問題協議会会長 (9 年間) |
| 昭和 54 年 | 川崎学童保育連絡協議会会長 (6 年間) |
| 昭和 56 年 | 障害児に進路を保障する連絡協議会 (わになろう会) 設立 障害児に進路を保障する連絡協議会事務局 (20 年間) 川崎障害児者問題研究会運営委員 (現在まで) |
| 平成 11 年 | 川崎市立中学校教諭退職 |
| 平成 11 年 ～平成 16 年 | 横浜国際福祉専門学校講師 |
| 平成 13 年 | 特定非営利活動法人わになろう会設立、理事長に就任 (現在まで) |
| 平成 21 年 | わになろう会が「かながわ子ども・子育て支援奨励賞」受賞 |
| 平成 26 年 | 川崎市「功労賞」受賞 |
| 【推薦理由】 | |
| <p>昭和 56 年に設立した「わになろう会」の代表として、34 年に渡り障がい児やその家族、担当する教員を支援し、福祉の増進、人権の擁護に多大な社会貢献活動を続けている。また、特別な支援を必要としている子どもたちの支援に関わる人たちのネットワークである「豊かな教育を考える連絡協議会」を立ち上げたり、活動拠点である「サポートハウスわにの家」の運営を行う傍ら、多くの委員を務め、また市民活動やボランティア活動など、多岐にわたって活躍されている。</p> | |
| 【推薦者】 | |
| (公財) かわさき市民活動センター 理事長 小倉敬子 | |

川崎市アゼリア輝賞受賞者のプロフィール

あかせ さやか
赤瀬 紗也香

～競泳女子背泳ぎ界のホープ～

市立橘中学校1年生在学時に、全国中学100m背泳ぎで優勝。その後も、国内外の数々の大会で、目覚ましい活躍を続けてこられました。2014年には韓国仁川市で行われたアジア競技大会の競泳200m女子背泳ぎで優勝されたほか、世界短水路選手権200m背泳ぎで3位入賞など、輝かしい成績を収められ、今後の活躍が大いに期待されています。



| 略 歴 | |
|--|---|
| 氏 名 | 赤瀬 紗也香 様 (21 歳) |
| 住 所 | 川崎市高津区 |
| 川崎市における 在住年数 | 平成 6 年 8 月～現在 |
| 職 業 | 大学生 (水泳選手) |
| 平成 19 年 | 全国中学 100m 背泳ぎ 優勝 |
| 平成 20 年 | 世界 Jr.選手権 50m/100m 背泳ぎ 6 位 |
| 平成 21 年 | 日本選手権 200m 背泳ぎ 7 位 アジアエージ 50m 背泳ぎ 3 位 100m/200m 背泳ぎ 優勝 アジア選手権 50m 背泳ぎ 4 位 200m 背泳ぎ 2 位 |
| 平成 22 年 | 日本選手権 100m 背泳ぎ 8 位 200m 背泳ぎ 4 位 高校総体 100m/200m 背泳ぎ 優勝 Jr.パンパシフィック 100m/200m 背泳ぎ 優勝 |
| 平成 23 年 | 国際大会代表選考会 100m 背泳ぎ 6 位 200m 背泳ぎ 4 位 ジャパンオープン 200m 背泳ぎ 2 位 高校総体 100m 背泳ぎ 2 位 200m 背泳ぎ 優勝 |
| 平成 25 年 | 日本短水路 200m 背泳ぎ 優勝 日本選手権 100m 背泳ぎ 3 位 200m 背泳ぎ 優勝 ジャパンオープン 100m 背泳ぎ 2 位 200m 背泳ぎ 優勝 学生選手権 100m/200m 背泳ぎ 優勝 |
| 平成 26 年 | 五カ国対抗戦 100m/200m 背泳ぎ 2 位 日本短水路 50m/100m/200m 背泳ぎ 優勝 日本選手権 100m/200m 背泳ぎ 2 位 ジャパンオープン 100m 背泳ぎ 2 位 200m 背泳ぎ 優勝 パンパシフィック水泳選手権 100m 背泳ぎ 4 位 200m 背泳ぎ 7 位 学生選手権 100m/200m 背泳ぎ 優勝 アジア競技大会 200m 背泳ぎ 優勝 世界短水路選手権 200m 背泳ぎ 3 位 |
| <p>【推薦理由】 橘中学校在学時、中学 1 年生で全国中学 100m 背泳ぎで優勝。日本・世界での活躍をつづけ、2014 年 9 月 26 日には仁川アジア競技大会において、競泳 200m 女子背泳ぎで優勝。競泳女子背泳ぎ界のホープとして、これからの活躍が期待されている。</p> <p>【推薦者】 市民・こども局市民スポーツ室長</p> | |

川崎市アゼリア輝賞受賞者のプロフィール

わたなべ れみ
渡邊 麗美

～次々新記録を樹立する障がい者水泳の星～

小学校3年生で本格的に水泳を始め、2014年10月には韓国仁川市で行われたアジアパラ競技大会の知的障害部門100m平泳ぎでアジア新記録を樹立し優勝。2週間後の第14回全国障害者スポーツ大会知的障害部門25m及び50m平泳ぎや、2015年9月のジャパンパラ水泳競技大会知的障害部門の100mバタフライ及び平泳ぎでいずれも大会新記録で優勝されるなど、並ぶもののない活躍をされ、今後の更なる活躍が期待されています。



| 略 歴 | |
|---|---|
| 氏 名 | 渡邊 麗美 様 (22 歳) |
| 住 所 | 川崎市宮前区 |
| 川崎市における 在住年数 | 22 年 |
| 職 業 | 水泳選手・会社員 ((株) クロスカンパニー) |
| 平成 26 年 | <p>インチョン 2014 アジアパラ競技大会 知的障害部門 100m平泳ぎ優勝 (アジア新)</p> <p>第 14 回全国障害者スポーツ大会 知的障害部門 25m平泳ぎ 優勝 (大会新) 50m平泳ぎ 優勝 (大会新)</p> |
| 平成 27 年 | <p>2015 ジャパンパラ水泳競技大会 知的障害部門 100m バタフライ 優勝 (大会新) 100m 平泳ぎ 優勝 (大会新)</p> |
| <p>【推薦理由】</p> <p>知的障害部門の平泳ぎ選手として、昨年度韓国で開催されたインチョン 2014 アジアパラ競技大会や長崎県で開催された、第 14 回全国障害者スポーツ大会に出場、いずれも新記録で優勝を果たすなど、目覚しい活躍を見せている。</p> <p>また、2015 年度の (一社) 日本知的障害者水泳連盟国際大会強化指定選手にも選ばれ、今後の更なる活躍が期待される選手である。</p> <p>【推薦者】 健康福祉局障害保健福祉部長</p> | |

平成27年度川崎市文化賞等選考委員 (50音順・敬称略)

| 氏名 | 分野 | 所属 |
|--------------------|------------------|---------------------------|
| あかつか みつこ 赤塚 光子 | 社会福祉 | 元立教大学教授 川崎市地域自立支援協議会会長 |
| くぼ たまさき 久保田昌希 | 学術 (歴史学) | 駒澤大学副学長 |
| すずき のぼる 鈴木 登 | 保健衛生 | 聖マリアンナ医科大学教授 |
| つのだ みつひろ 角田 光広 | スポーツ | テレビ神奈川報道局スポーツ部長 |
| とくだ けんじ 徳田 賢二 | 産業経済 | 専修大学教授 |
| はやし ようこ 林 容子 | 芸術 (美術) | 尚美学園大学・大学院准教授 |
| ふくとみ ただかず 福富 忠和 | 学術 (デジタルメディア) | 専修大学教授 |
| むらかみ あけみ 村上 明美 | 芸術 (音楽) | 洗足学園音楽大学名誉教授 |
| よこやま よしかず 横山 由和 | 芸術 (演劇) | 昭和音楽大学准教授 |
| すなだ しんじ 砂田 慎治 | 行政 | 副市長 |
| わたなべ なおみ 渡邊 直美 | 行政 | 教育長 |
| かとう じゅんいち 加藤 順一 | 行政 | 市民・こども局長 |

平成27年度川崎市文化賞等贈呈式について

- 1 日 時 平成27年11月5日（木）
14：00～15：00
（祝賀会 15：00～16：00）

- 2 会 場 川崎市国際交流センター
川崎市中原区木月祇園町2-2
電話044-435-7000（代）

- 3 式次第 開式
川崎市文化賞等贈呈
主催者あいさつ
来賓代表あいさつ
受賞者代表あいさつ
閉式

川崎市文化賞等実施要綱

(目的)

第1条 川崎市の文化、芸術、地域社会、市民福祉及びスポーツ等の各分野において、その向上及び発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対し、川崎市文化賞等を贈呈し、文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 川崎市文化賞等の名称は、次の各号のとおりとする。

- (1) 川崎市文化賞
- (2) 川崎市社会功労賞
- (3) 川崎市スポーツ賞
- (4) 川崎市アゼリア輝(かがやき)賞

(主催)

第3条 川崎市文化賞等の主催は、川崎市とする。

(対象分野等)

第4条 川崎市文化賞等の対象となる分野、推薦基準等については、別表のとおりとする。

(候補者の推薦)

第5条 川崎市文化賞等に係る受賞の対象となる候補者については、次の各号に定めるものの推薦による。

- (1) 市内の関係機関及び団体
- (2) 課又は課相当の組織及び事業所の長

(受賞者の決定)

第6条 川崎市文化賞等に係る受賞者は、前条に規定する団体等の推薦に基づき川崎市文化賞等選考委員会（以下「選考委員会」という。）の議を経て、市長が決定する。

(表彰)

第7条 第6条の規定により、決定した者について、賞状及び副賞を贈呈し、これを表彰する。

(特別賞)

第8条 市長は、この要綱に定めるもののほか、特に顕著な活躍をし、功績があった個人又は団体に対し、選考委員会の議を経ずに特別賞を贈呈することができる。

(庶務)

第9条 川崎市文化賞等贈呈に関する庶務は、市民・こども局において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成 3 年 7 月 2 4 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 4 年 5 月 2 9 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 5 年 5 月 2 7 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 1 7 年 9 月 1 2 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 0 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 1 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。

川崎市文化賞等受賞対象分野、推薦基準等一覧表

No. 1

| | 分野 | 内容 | 推薦基準 |
|-------|--------|--|--|
| 文化賞 | 教育 | 教育研究、教育実践 | 1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、川崎市における文化の向上、発展に尽力し、また貢献し、とくにその功績顕著な者。 2 団体 概ね10年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市における文化の向上、発展にとくに貢献した団体。 |
| | 学術 | 人文科学、社会科学、自然科学 | |
| | 芸術 | 絵画、彫刻、版画、写真、音楽、演劇、文芸、芸能など | |
| | 文化活動 | 国際文化交流、地域文化の創造、普及及び振興、文化財の発掘、調査、保存及び継承など | |
| 社会功労賞 | 社会福祉 | 児童、母子、老人、身体障害者、及び知的障害者などの福祉活動 | 1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、概ね10年以上の活動をとおして川崎市における市民生活の向上、発展にとくに貢献した者。 2 団体 概ね10年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市における市民生活の向上、発展にとくに貢献した団体。 |
| | 保健衛生 | 保健衛生、医療 | |
| | 産業・経済 | 産業、経済の振興と社会への貢献 | |
| | 地域振興 | 地域社会の発展、交流及び連携の促進、自然環境の保全、回復育成など | |
| スポーツ賞 | スポーツ実践 | 大会等の記録、成績 | 1 国際大会に入賞した個人又は団体。(注1,2参照) 2 国内大会に2年連続優勝又はこれに準じた成績を残した個人又は団体。(注1,2参照) 3 競技人口が多く、レベルの高い国内大会に優勝又はこれに準じた成績を残した個人又は団体。(注1参照) 4 日本新記録など特に優秀な記録を残した個人又は団体。(注1参照) 5 スポーツ向上に貢献した功績が顕著な者。(注1参照) (注1) ここでいう「個人又は団体」とは、川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人又は団体をいう。 (注2) 対象となる大会は、次のとおりとする。 ア 国際大会 オリンピック、世界選手権大会(ワールドカップ)、アジア大会、ユニバーシアード、パラリンピック、フェスピックその他これに準じた大会 イ 国内大会 日本選手権大会、全日本学生選手権大会、全国高校総合体育大会、国民体育大会、全国障害者スポーツ大会、その他これに準じた大会 |

| | 分野 | 内容 | 推薦基準 |
|-------------------------------|------------|--|--|
| スポーツ賞 | スポーツ 振興 | スポーツの普及、振興 | <p>1 個人 川崎市民もしくは川崎市にゆかりのある個人であり、概ね 10 年以上の活動をとおして川崎市におけるスポーツの向上、発展にとくに貢献した者。</p> <p>2 団体 概ね 10 年以上の継続した活動をしている団体であり、活動をとおして川崎市におけるスポーツの向上、発展にとくに貢献した団体。</p> |
| アゼリア輝賞 <small>かがやき</small> | 文化 芸術 | 学 術 音 楽 美 術 文 学 演 劇 写 真 舞 踊 スポーツ等 | <p>1 若年層及び中堅層の個人又は団体</p> <p>(1) 個展・演奏会・公演・講演等の活動において現在活躍中の若年層及び中堅層で、さらに今後の活躍が特に期待される個人又は団体。</p> <p>(2) 川崎らしい特色ある活動をしている個人又は団体、特定の分野における抜群の成果を収めた個人又は団体。</p> <p>(3) 各部門においてその年に顕著な業績をあげ、広く市民に希望と感動をもたらした個人又は団体。</p> |

川崎市文化賞等をこれまでに受賞された方々(敬称略)

No. 1

| 昭和47年度(第1回) | | 昭和56年度(第10回) | | 昭和63年度(第17回) | |
|------------------------|---------------------------|------------------------|-----------------------|----------------|--|
| 安藤 英輔 (研究活動) | 奥田 千秋 (保健衛生) | 井上 房江 (保健衛生) | | | |
| 石川 八代次 (教育実践) | 芹澤 忠蔵 (社会福祉) | 竹田 道太郎 (芸術) | | | |
| 伊藤 六郎兵衛 (郷土史研究) | 野本 琢 (社寺建築) | 土方 恵治 (教育) | | | |
| 大古 誠司 (スポーツ実践) | 藤子不二雄 (児童漫画) | 水原 春郎 (地域医療) | | | |
| 川崎市民交響楽団 (音楽) | 京浜協同劇団 (地域文化) | 三井 春富 (文化交流) | | | |
| 斉藤 茂 (美術) | 昭和57年度(第11回) | | 幸の会 (社会福祉) | | |
| 中原 誠 (一般文化) | 植松 正子 (母子保健) | 平成元年度(第18回) | | | |
| 昭和48年度(第2回) | | 高野 榮 (障害者福祉) | 内海 榮一郎 (地域医療) | | |
| 圓鍔 勝二[勝三] (美術) | 田邊 秀治 (社会福祉) | 奥田 良三 (芸術) | | | |
| 笠井 儀郎 (スポーツ実践) | 松原 秀耕 (文化振興) | 柏木 武司 (社会福祉) | | | |
| 庄野 潤三 (文芸) | 山田 太一 (文芸) | 亀ヶ谷 利男 (文化財保護) | | | |
| 高島 松柏 (教育実践) | 川崎古式消防纏保存会 (文化財保護) | 手塚 彌太郎 (産業振興) | | | |
| 日本鋼管株式会社硬式野球部 (スポーツ実践) | 川崎青年会議所・高津青年会議 (地域文化) | 野谷 博司 (教育) | | | |
| 昭和49年度(第3回) | | 昭和58年度(第12回) | | 三宅 忠雄 (保健衛生) | |
| 太田 清一 (保健衛生) | 嘉重 きよ (社会福祉) | 東芝女子バスケットボール部 (スポーツ実践) | | | |
| 小笠原 洪一 (スポーツ実践) | 古尾谷 盛太郎 (地域文化) | 平成2年度(第19回) | | | |
| 金子 直蔵 (社会福祉) | 前田 徳尚 (保健衛生) | 石川 幾蔵 (地域文化) | | | |
| 山室 静 (文芸) | 森 爽海 (教育) | 一ノ瀬 志郎 (保健衛生) | | | |
| 結城 正雄[天童] (美術) | 川崎市歯科医師会心身障害児 (社会福祉) | 小川 信夫 (教育) | | | |
| 昭和50年度(第4回) | | 歯科治療協力医グループ | 小黒 恵子 (芸術) | | |
| 川嶋 廣吉 (保健衛生) | 科学技術学園高等学校 (スポーツ実践) | 小西 乾太郎 (文化振興) | | | |
| 齋藤 壽一 (絵画) | 川崎野球部<通信制> | 濱田 靖一 (学術) | | | |
| 島田 きみ (社会福祉) | 人形劇団ひとみ座 (演劇) | さざなみ会 (社会福祉) | | | |
| 藤田 親昌 (文化振興) | 昭和59年度(第13回) | | 法政大学第二高等学校 (スポーツ実践) | | |
| 松尾 興助 (社会教育) | 石川 芳松 (文化財保護) | アメリカンフットボール部 | | | |
| 昭和51年度(第5回) | | 磯野 和久 (保健衛生) | 平成3年度(第20回) | | |
| 大山 義隆 (保健衛生) | 臼田 吉男 (保健衛生) | 文化賞 | 井上 和賀雄 (教育) | | |
| 國枝 慶一 (社会福祉) | 小野寺 章彦 (スポーツ実践) | | 市川 昭介 (芸術) | | |
| 久保 常晴 (学術) | 柏倉 政男 (社会福祉) | | 日本電気玉川吹奏楽団 (芸術) | | |
| 濱田 庄司 (美術) | 小林 英男 (地域文化) | 社会功労賞 | 安藤 武次 (社会福祉) | | |
| まど・みちお (文学) | 長江 録弥 (芸術) | | 松田 文太郎 (保健衛生) | | |
| 多摩芸術学園「わが町一溝の口」(演劇) | 前田 豊子 (教育) | | 三木 齊 (産業経済) | | |
| 構成・出演者一同 | 法政大学第二高等学校ハレホール部 (スポーツ実践) | スポーツ賞 | 山田 敬蔵 (スポーツ振興) | | |
| 昭和52年度(第6回) | | 昭和60年度(第14回) | | 東芝野球部 (スポーツ実践) | |
| 高橋 憲太郎 (文化振興) | 井田 潔 (保健衛生) | | 富士電機女子ハレホール部 (スポーツ実践) | | |
| 馬來田 善孝 (美術) | 岡 時義 (社会福祉) | 平成4年度(第21回) | | | |
| 宮田 多良喜 (スポーツ振興) | 栗田 正文 (保健衛生) | 文化賞 | 渋谷 益左右 (文化活動) | | |
| 川崎沖縄芸能研究会 (文化財保護) | 馬場 あき子 (芸術) | | 杉山 康彦 (学術) | | |
| 昭和53年度(第7回) | | 坂東 忠彦 (教育) | 谷川 健一 (学術) | | |
| 麻生 三郎 (美術) | 米山 市郎 (地域文化) | | 萩坂 桃彦 (芸術) | | |
| 渡辺 三郎 (保健衛生) | 禰直舞保存会 (文化財保護) | | 東芝科学館 (文化活動) | | |
| 市川 昇 (文化振興) | 法政大学第二高等学校 (スポーツ実践) | 社会功労賞 | 市川 ハル (社会福祉) | | |
| 小向・菅・初山の獅子舞保存会 (文化財保護) | フェンシング部 | | 鈴木 清次 (地域振興) | | |
| 河上 徹太郎 (文芸) | 昭和61年度(第15回) | | 渡邊 嘉造伊 (保健衛生) | | |
| 東芝野球部 (スポーツ実践) | 小田切 純一 (医療) | スポーツ賞 | NKKハスケツトホール部 (スポーツ実践) | | |
| 中山 貞治 (社会福祉) | 小林 明治 (障害者福祉) | 平成5年度(第22回) | | | |
| 昭和54年度(第8回) | | 白井 禄郎 (教育実践) | 文化賞 | 岩谷 隆存 (教育) | |
| 青江 舜二郎 (演劇) | 田中 岑 (芸術) | | 古江 亮仁 (文化財保護) | | |
| 石井 展子 (社会福祉) | 沼田 稲次郎 (教育実践) | | 村上 直 (学術) | | |
| 齋藤 武雄 (スポーツ振興) | 科学技術学園高等学校 (スポーツ実践) | 社会功労賞 | 近藤 正夫 (保健衛生) | | |
| 田中 利三 (保健衛生) | 川崎<通信制>卓球部 | | 川崎信用金庫 (地域振興) | | |
| 箕輪 敏行 (社会教育) | 水車の会 (社会福祉) | スポーツ賞 | 小林 完一 (スポーツ振興) | | |
| 新城郷土芸能保存会 (文化財保護) | 昭和62年度(第16回) | | 早川 友二 (スポーツ実践) | | |
| 昭和55年度(第9回) | | 猪熊 和吉 (地域文化) | 檜森 祐之 (スポーツ実践) | | |
| 岡 信孝 (芸術) | 西郷 信綱 (学術) | 平成6年度(第23回) | | | |
| 鈴木 弘治 (保健衛生) | 鈴木 正 (教育) | 文化賞 | 飯嶋 和夫 (教育) | | |
| 松井 浩正 (スポーツ振興) | 中野 一雄 (スポーツ振興) | | 湯上 二郎 (教育) | | |
| 持田 春吉 (社会教育) | 二階堂 龍夫 (芸術) | | 小澤 征爾 (芸術) | | |
| 横山 央 (社会福祉) | 古沢 妙 (社会福祉) | 社会功労賞 | 高士 利男 (保健衛生) | | |
| 川崎少年少女合唱団 (地域文化) | 馬嶋 正雄 (保健衛生) | | 中島 忠三 (地域振興) | | |
| | 梓の会 (社会福祉) | | 李 仁夏 (社会福祉) | | |

| 平成6年度(第23回)(続き) | | 平成13年度(第30回)(続き) | | 平成20年度(第37回) | |
|-----------------|-------------------------|------------------|-------------------------|--------------|---------------------------|
| 社会功労賞 | 近藤 俊朗 (社会福祉) | 社会功労賞 | 壁 義彰 (社会福祉) | 文化賞 | 与 勇輝 (芸術) |
| | 原 泰造 (社会福祉) | | 窪田 敏昭 (保健衛生) | | 佐藤 忠男 (芸術) |
| スポーツ賞 | 高橋 三代子 (スポーツ実践) | | 小峯 利一 (産業経済) | 社会功労賞 | 宮川 政久 (保健衛生) |
| | 神奈川県立住吉高等学校 (スポーツ実践) | 平成14年度(第31回) | | | 和田 義盛 (地域振興) |
| | フライング部LANCERS | 文化賞 | 中島 豪一 (文化活動) | スポーツ賞 | 川崎市立橋高等学校 (スポーツ実践) |
| 平成7年度(第24回) | | | 民具製作技術保存会 (文化活動) | | ハレーボール部 |
| 文化賞 | 小川 一朗 (学術) | 社会功労賞 | 芽の字会 (社会福祉) | | 富士通女子バスケットボール部 (スポーツ実践) |
| | 久保 陽子&弘中 孝 (芸術) | | 松尾 成久 (保健衛生) | アゼリア輝賞 | 大矢 高弓 (芸術(美術)) |
| | 岡本 喜八 (芸術) | | 持田 俊夫 (産業経済) | | 廣田 美穂 (芸術(音楽)) |
| 社会功労賞 | 野呂 幸進 (社会福祉) | 平成15年度(第32回) | | 国際貢献特別賞 | 中込 璋 (平和活動) |
| | 田中 忠一 (保健衛生) | 文化賞 | 神奈川県立多摩高等学校 (芸術) | 平成21年度(第38回) | |
| | 高橋 隆天 (地域振興) | | 合唱部 | 文化賞 | 加古 里子 (芸術) |
| スポーツ賞 | 隆三杉 太一 (スポーツ実践) | | 齋藤 文夫 (文化活動) | | 佐藤 征一郎 (芸術) |
| | 成田 真由美 (スポーツ実践) | 社会功労賞 | 大谷 金一 (社会福祉) | 社会功労賞 | 金子 忠雄 (社会福祉) |
| 平成8年度(第25回) | | | 栗山 覚 (保健衛生) | | 久保木 弘 (保健衛生) |
| 文化賞 | 碓井 正久 (教育) | | 吉野 辰男 (地域振興) | スポーツ賞 | 朝日 健太郎 (スポーツ実践) |
| | 麻生フルハーモニー管弦楽団 (芸術) | スポーツ賞 | 三菱ふそう川崎硬式野球部 (スポーツ実践) | | 左澤 重明 (スポーツ振興) |
| | 齋間 萬 (文化活動) | | 加藤 時太郎 (スポーツ振興) | アゼリア輝賞 | 大類 朋美 (芸術(音楽)) |
| | 中川 竹泰 (文化活動) | アゼリア輝賞 | 大平 貴之 (文化(天文)) | | 真飛 聖 (芸術(演劇)) |
| 社会功労賞 | 馬嶋 喜多子 (社会福祉) | | 秦 江里奈 (芸術(音楽)) | 平成22年度(第39回) | |
| | 鈴木 正一 (保健衛生) | 平成16年度(第33回) | | 文化賞 | 藤嶋 昭 (学術・教育) |
| | 日本アイ・ピー・エム株式会社 (地域振興) | 文化賞 | 原田 尚彦 (学術) | | 白鳥 あかね (芸術(映画)) |
| | 川崎事業所 | | 大矢 紀 (絵画) | 社会功労賞 | 大山 泰弘 (社会福祉・産業経済) |
| スポーツ賞 | 三菱自動車川崎硬式野球部 (スポーツ実践) | | 角田 益信 (郷土史) | | 太田 正治 (保健衛生) |
| 平成9年度(第26回) | | 社会功労賞 | 白野 明 (社会福祉) | | 中山 茂 (産業経済・地域振興) |
| 文化賞 | 篠原 一 (教育) | | かわさき自然調査団 (地域振興) | スポーツ賞 | 車 耕作 (スポーツ振興) |
| | 東芝ライトオン・ジャズ・オーケストラ (芸術) | スポーツ賞 | 目黒 友薫 (フェンシング) | アゼリア輝賞 | 小林 政高 (芸術(音楽)) |
| | 今村 昌平 (芸術) | アゼリア輝賞 | 李 相日 (映画(監督)) | | 光岡 暁恵 (芸術(音楽)) |
| | 無羅多 正建 (文化活動) | | 三瓶 将廣 (ハイクルモクロス) | スポーツ特別賞 | 東芝野球部 (スポーツ実践) |
| 社会功労賞 | 小川 玉子 (社会福祉) | 平成17年度(第34回) | | | 川島 永嗣 (スポーツ実践) |
| | 田辺 誠 (保健衛生) | 文化賞 | 横山 榮二 (環境保全) | | 稲本 潤一 (スポーツ実践) |
| スポーツ賞 | 上野 富夫 (スポーツ振興) | | 鶴澤 久 (能楽) | | 中村 憲剛 (スポーツ実践) |
| 平成10年度(第27回) | | 社会功労賞 | 安藤 國男 (障害者福祉) | | 中村 俊輔 (スポーツ実践) |
| 文化賞 | 芳賀 周一郎 (教育) | | 齊藤 二郎 (地域福祉) | | 森本 貴幸 (スポーツ実践) |
| | 藤村 志保 (芸術) | | 田中 辰彦 (地域医療) | | 鄭 大世 (スポーツ実践) |
| | 細山郷土資料館 (文化活動) | スポーツ賞 | 中田 大輔 (トランポリン) | 平成23年度(第40回) | |
| 社会功労賞 | 林 壽男 (社会福祉) | アゼリア輝賞 | 神谷 百子 (芸術(音楽)) | 文化賞 | 青木 信雄 (教育) |
| | 田山 四郎 (保健衛生) | | 松下 京介 (芸術(音楽)) | | 井口 衛 (教育) |
| | 福嶋 三郎 (産業経済) | スポーツ特別賞 | 三菱ふそう川崎硬式野球部 (スポーツ実践) | | 高野 映子 (文化活動) |
| スポーツ賞 | 佐々木 竹見 (スポーツ実践) | | 東芝ブレイブサンダース (スポーツ実践) | 社会功労賞 | 朗読ボランティアグループ「さんざし」 (社会福祉) |
| | 日野原 守 (スポーツ振興) | 平成18年度(第35回) | | | 小島 春男 (地域振興) |
| 平成11年度(第28回) | | 文化賞 | 小川 典子 (ピアノ) | | (財)川崎市国際交流協会 (地域振興) |
| 文化賞 | 杉本 長治 (教育) | | 小池 汪 (写真) | | 日本語講座ボランティア |
| | 三輪 晃久 (芸術) | | 藤田 朝也 (演劇) | 音楽特別賞 | 後藤 正孝 (ピアノ) |
| 社会功労賞 | 電機連合神奈川県地方協議会 (社会福祉) | 社会功労賞 | 奥村 栄 (社会福祉) | スポーツ特別賞 | 宇津木 瑠美 (スポーツ実践) |
| | 池田 宏 (保健衛生) | | 杉浦 芳子 (地域医療) | 平成24年度(第41回) | |
| | 栗原 福蔵 (産業経済) | スポーツ賞 | 齊藤 義晴 (スポーツ振興) | 文化賞 | 江頭 秀夫 (文化活動) |
| | 間島 快子 (地域振興) | アゼリア輝賞 | 後藤 正孝 (芸術(音楽)) | | 和田 あき子 (文化活動) |
| スポーツ賞 | 伊東 浩司 (スポーツ実践) | | 平原 綾香 (芸術(音楽)) | 社会功労賞 | 萩原 保夫 (社会福祉) |
| 平成12年度(第29回) | | スポーツ特別賞 | 富士通アリアソフトボール部 (スポーツ実践) | | 間瀬 実 (保健衛生) |
| 文化賞 | 篠田 卓夫 (教育) | 平成19年度(第36回) | | スポーツ賞 | 専修大学体育会サッカー部 (スポーツ実践) |
| | 渡辺 豊重 (芸術) | 文化賞 | 秋山 和慶 (音楽) | アゼリア輝賞 | 垣内 悠希 (芸術(音楽)) |
| | 吉田 喜重 (文化活動) | | 森川 定實 (平和運動) | | 毛利 文香 (芸術(音楽)) |
| 社会功労賞 | 小林 五代子 (社会福祉) | 社会功労賞 | 石井 哲夫 (社会福祉) | スポーツ特別賞 | 市立橋高等学校女子バレーボール部 (スポーツ実践) |
| | 工藤 昭 (産業経済) | | 小泉 一郎 (産業経済) | | 立石 諒 (スポーツ実践) |
| スポーツ賞 | 東芝男子バスケットボール部 (スポーツ実践) | スポーツ賞 | 法政大学アリアソフトボール部 (スポーツ実践) | 平成25年度(第42回) | |
| | 伊丹 寅吉 (スポーツ振興) | | 春日山部屋 (スポーツ振興) | 文化賞 | (公財)東京交響楽団 (芸術) |
| 平成13年度(第30回) | | アゼリア輝賞 | 須藤 梨菜 (芸術(音楽)) | 社会功労賞 | 高橋 章 (保健衛生) |
| 文化賞 | 森久保 安美 (教育) | | 成海 璃子 (芸術(演劇)) | | 都倉 正明 (産業・経済) |
| | 名渡山 兼一 (文化活動) | スポーツ特別賞 | 東芝野球部 (スポーツ実践) | | 飯田 和子 (地域振興) |
| | 上田 恒三 (文化活動) | | | | |

| 平成25年度(第42回)(続き) | |
|------------------|---|
| スポーツ賞 | 井端 弘和 (スポーツ実践) 柿生青少年柔道会 (スポーツ振興) |
| アゼリア輝賞 | 内田 けんじ (芸術(映画)) 昆 夏美 (芸術(音楽)) |
| スポーツ特別賞 | 大久保 嘉人 (スポーツ実践) 東芝ブレイブサンダース神奈川 (スポーツ実践) |
| 平成26年度(第43回) | |
| 文化賞 | 城谷 護 (文化活動) 寺尾 嘉剛 (文化活動) 奈良岡 朋子 (芸術) 炉端の会 (文化活動) |
| 社会功労賞 | 井田 満夫 (保健衛生) |
| スポーツ賞 | 東芝ブレイブサンダース神奈川 (スポーツ実践) |
| アゼリア輝賞 | 細川 千尋 (芸術(音楽)) 三寺 郷美 (芸術(ダンス)) |
| スポーツ特別賞 | 浜田 千穂 (スポーツ実践) 大久保 嘉人 (スポーツ実践) 富士通フロンティアーズ (スポーツ実践) |
| 平成27年度(第44回) | |
| スポーツ特別賞 | NECレッドロケッツ (スポーツ実践) |

川崎市文化賞・社会功労賞・スポーツ賞・アゼリア輝賞・特別賞の経過について

川崎市文化賞等は、川崎市の文化、芸術、地域社会、市民福祉及びスポーツ等の各分野において、その向上及び発展に尽力し、その功績顕著な個人または団体に対し、川崎市文化賞等を贈呈し、文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

1. 制定 昭和47年（第1回贈呈式 昭和47年11月3日）

- (1) 平成3年度第20回を契機に川崎市文化賞を「川崎市文化賞・社会功労賞・スポーツ賞」に改正
- (2) 平成15年度第32回に新たにアゼリア輝賞を新設
- (3) 平成17年度第34回に特別賞を新設

2. 賞の内容

- (1) 賞状
- (2) 副賞 文化賞・社会功労賞・スポーツ賞（30万円）
アゼリア輝賞（10万円）、特別賞（10万円）
- (3) 記念品
 - ・文化賞・社会功労賞・スポーツ賞については、渡辺豊重氏デザインによるガラス作品「Heart for You」
 - ・アゼリア輝賞・特別賞については、平山義氏デザインによるガラス作品「燦^{きら}」
※制作は東京ガラス工芸研究所

3. 受賞者総数

| | | | |
|------------------|----|-----|----------|
| (昭和47年から平成27年まで) | 個人 | 275 | (特別賞を含む) |
| | 団体 | 64 | (特別賞を含む) |
| | 計 | 339 | |

4. 分野別受賞者

() 内は団体（再掲）

| 文化賞 | | 社会功労賞 | | スポーツ賞 | | アゼリア輝賞 | |
|------|---------|-------|---------|-------|--------|--------|----|
| 教育 | 29 | 社会福祉 | 44(8) | 実践 | 35(20) | 学術 | 1 |
| 学術 | 9 | 保健衛生 | 40 | 振興 | 15(2) | 音楽 | 13 |
| 芸術 | 54(9) | 産業経済 | 9 | 合計 | 50(22) | 美術 | 1 |
| 文化活動 | 45(12) | 地域振興 | 13(4) | | | 演劇 | 4 |
| 合計 | 137(21) | 合計 | 106(12) | | | スポーツ | 3 |
| | | | | | | その他 | 2 |
| | | | | | | 合計 | 24 |

| 特別賞 | |
|-----|-------|
| 合計 | 22(9) |

5. 平成27年度推薦依頼先 164件（大学・各種団体他）